

2024 フクシマ連帯キャラバン報告書

私は去年に引き続き二回目の参加となります。前回のキャラバン終了後、地元へ帰り報告会を持ちました。そこで、「来年は自分も連れて行って下さい。被災地を訪れ直接見て肌で感じ、自分に何ができるか考えたいです。」と言ってくれた仲間がいました。一人で行ってこい。と最初少し思いましたが、情報を共有し被災地の現状を帰ってから少しでも多くの人に伝えられた方がいいと考え直し、今年は二人で参加させてもらいました。

参加するにあたり被災地を訪れる際、被災した方々の心情に配慮できるか。「汚染処理水を流すな」と強く発信することが、海産物を取り扱う人達への風評被害を受ける原因になってしまわないかなど、少し不安もありました。ですが日を重ねるにつれ、そもそもの原因でもある「原発はいらない！」と声を上げ続けることが重要だと強く再確認できました。他のエネルギーを利用し賄えきれぬなら不安要素が多い原発は稼働するべきではないです。

大熊町・双葉町にある、除染により発生した土壌や廃棄物等を保管している中間貯蔵施設の問題は沖縄の基地問題に似ています。県外での最終処分は決まっているようですが、政府は方針を示さず受け入れ先が不透明で貯蔵施設は地元で押しつけられたままの状態。全国の首長達が手を上げ、一部でも受け入れ、地方での負担を全国で軽減させることがとても重要だと思います。その為には選挙へ行き、自分たちの意思を反映させてくれる人を選ぶことが大切です。しかし、そのうえで地方負担軽減策が本当に「正しいのか？」正直議論があると思います。

最後に。全国の新しい仲間との出会いや旧友と再会できたこと、皆変わらず運動を続けていることがわかり、とても嬉しく力を貰えました。キャラバン行動はまだまだ続くと思いますが、東北地方青年部の思いに賛同し、これからも共に運動を続けていきたいです。

沖縄地方青年女性部
青年部部長 新里 良平